



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 98) uniwish25号 (2017年10月)
佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号
(電話・FAX) 0952-28-2077
(業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00
E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
facebook <http://www.facebook.com/unicef.saga>



みなさまからのご支援で ~ユニセフ活動報告~



© UNICEF/UNI78184/Siddique
母親に抱かれ微笑む男の子。(バングラデシュ)

ユニセフは、最も困難な立場にある子どもたちを支援するため、今まで成果をあげている事業をもとに、さらに改善が得られるよう活動を行っています。5歳未満の子どもの死亡数は着実に減っています。

1990年から2015年までに、5歳の誕生日を迎える前に命を落とす子どもの数はおよそ半分に減りました。同じ期間で、安全な水を利用できることのできる人の割合は91%となり、ミレニアム開発目標で掲げられた目標(88%)を上回りました。

過去15年以上にわたるHIV/エイズの母子感染予防プログラムは、世界で160万人の子どもを新たな感染から守り、抗レトロウイルス治療の提供によっておともも含め880万人の命が救われました。(2016年7月の発表)

5歳未満児死亡率は、国の貧しい層においてより改善されており、ユニセフは、今後も、最も貧しく、支援を必要としている人々を重点的に支援することで、さらに多くの命を守ることを目指しています。

以下では、みなさまからお寄せいただいたご支援で実現した一年間の活動成果をご報告します。(※2015年1月~12月)



保健

- ・95カ国で5歳未満児の45%に予防接種ワクチンを調達しました。
- ・82,000人の地域保健員に研修を行ないました。保健員は、子どもの命を守るために地域に根差して活躍しています



© NICEF/UNI199379/Anmar
ポリオの予防接種を受ける男の子。(イラク)



HIV/エイズ

- ・マラウイでは、母子感染予防プログラムの強化により、2014年末には73%だったHIV陽性の妊産婦の治療(受診)率が、2015年末には85%まで改善されました。
- ・HIV簡易診断キットを1,050万キット調達しました。
- ・2015年6月下旬、キューバでは、世界初、HIV母子感染の撲滅に成功しました。



水と衛生

- ・7,000万人を対象に水と衛生の支援活動を行ないました。そのうち4,500万人は人道危機下の状況にある人々です。
- ・世界で26,000の学校に給水設備やトイレの設置や改善などの支援を行ないました。



© UNICEF/UNI182989/Noorani
村の水道で笑顔を見せる女の子。(ラオス)



栄養

- ・重度の急性栄養不良の子ども320万人の治療を支援しました。
- ・栄養治療食34,851トンを供給しました。



教育

- ・1,490万人の子どもたちと348,000の教室に教材を提供しました。



子どもの保護

- ・130カ国で児童婚の根絶に向けたアドボカシー活動を支援しました。
- ・54カ国で970万人の出生登録を支援しました。
- ・14ヶ国で2,000以上のコミュニティが女性性器切除（FGM/C）の習慣を根絶させることを宣言し、ガンビアとナイジェリアではFGM/Cを取り締まる法律を制定しました。



社会へのインクルージョン（誰もが受け入れられる社会）

- ・新たに2か国（ソマリア、南スーダン）が子どもの権利条約を批准しました。
- ・子どもに焦点をあてた政策への予算配分が少なくとも30ヶ国で増えました。



緊急・復興支援

- ・ユニセフは102か国で301の紛争や自然災害などの緊急事態に対応しました。
- ・紛争下のシリアでは、約300万人に乳幼児にポリオの予防接種を行ない、84万人を超える子どもの心のケアを支援しました。
- ・難民危機に直面した欧州では8万人以上の子どもを保護施設でケアしました。



震災後に栄養治療を受けた3歳の男の子を背に。（ネパール）



国内避難民のために新しくできた教室で笑顔を見せる12歳の女の子。（イラク）



ユニセフが支援する子どもにやさしい空間の活動に参加するシリア難民の親子。（セルビア）

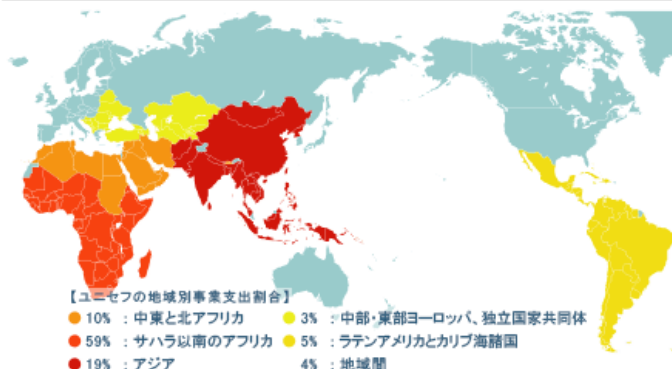
皆さまのご支援によりたくさんのお子どもたちの命が守られています。まことにありがとうございます。さらに多くの、困難な状況下にある子どもたちのために、どうぞよろしくお願いします。

【資料提供：日本ユニセフ協会】

ユニセフ（UNICEF:国連児童基金）とユニセフ協会（国内委員会）は、乳幼児から青年期までの子どもたちの命と健やかな成長のために、現在190の国と地域で活動しています。

日本ユニセフ協会は、現在先進国を中心に34の国と地域に設置されているユニセフ協会（国内委員会）の一つです。各国内委員会は、ユニセフ本部との協力協定に基づき、募金活動、広報活動、アドボカシー活動（政策提言）に取り組んでいます。

ユニセフが支援活動を行っている国と地域



ユニセフ協会のある国と地域



【資料提供：日本ユニセフ協会】

ロヒンギャ難民／バングラデシュ

命がけの流入止まらず

【2017年10月2日 コックス・バザール（バングラデシュ） 発】



© UNICEF/UN0119955/Brown

安全を求めてミャンマーからバングラデシュへ逃れてきたロヒンギャ難民。国境を越えた後、安全な避難場所を求めて、洪水地域や水田を歩いている。（2017年9月7日撮影）

8月25日以降バングラデシュに逃れたとされる難民のうち、19万2,000人が過密状態の避難民キャンプや仮設住宅で生活をしており、9万2,000人が地域の受けいれコミュニティに身を寄せています。

さらに、21万7,000人が一時的な受けいれ施設に身を置いています。その数は急激に膨らんでいます。最新の報告によると、8月25日以降にバングラデシュに逃れてきた難民のうち、58%が子どもで、全体の67%が女性であるという報告もあります。また、9%が1歳未満の子どもたち、23%が5歳未満、28%が6-18歳とされています。

多くの人々が何日もかけて50-60kmの道を歩いてきていて、食料、水、住居や保護を必要としています。バングラデシュにたどり着いても彼らの戦いは終わったわけではなく、十分な住居スペースがなく雨風にさらされる人もいれば、トラウマや忘れられない傷を抱えた人、疲弊していたり、病気や飢えに苦しんだり、

と多くの人たちがケアを必要としています。多くの低地に設置された住居は9月19日に起きた大雨で浸水しました。雨は引続き降ることが予想され、人口密度が高い場所では感染症の蔓延も懸念されます。特に幼い子どもたちにとって、感染症は命を落とす要因になります。

ユニセフ、緊急支援を拡大

ユニセフは子どもたちとその家族への支援活動を拡大しています。9月24日には、40万人分が今後4ヶ月安全な水を利用でき、3万5,000人が改善された水と衛生設備を利用できるように緊急支援物資を提供しました。また、9月28日には2,500人分の尊厳キット、4万7,000人以上の子ども分の箱の中の学校、コレラ対応キットを提供しました。

<水と衛生>

ユニセフは、新たに到着した5万人の難民を対象に、毎日安全な水を提供しているほか、3,050人の新たな難民にトイレの設置支援も進めています。

<栄養>

1万1,252人の新たに到着した子どもたちの健康状態を確認し、196人の急性栄養不良と診断された子どもたちを医療機関へ照会し、治療できるよう支援しています。

<保健>

9月中旬から一週間かけて行われた、はしか、風疹、ポリオの予防接種キャンペーンで、11万1,595人の子どもたちがはしかと風疹の予防接種を、5万9,544人の子どもたちにポリオの予防接種を提供しました。また、6万1,121人の子どもたちにビタミンAのサプリメントを提供しました。

<教育>

ユニセフが支援する学習センターといくつかの政府の小学校で523の緊急下の教育キットを提供し、今回の危機で最も影響を受けている、1万8,000人の子どもにも支援を届けています。

<子どもの保護>

1万5,560人以上の難民の子どもたちが、47の「子どもにやさしい空間」で心のケアや教育支援を受けています。また、525人の子どもが保護者と離れ離れになっており、家族との再会を支援しています。



© UNICEF Bangladesh

ロヒンギャ難民の子どもに予防接種を行うユニセフの保健員



© UNICEF Video

給水車から水を汲むロヒンギャ難民の人たち。

危機下にあるロヒンギャ難民の子どもたちと家族に、人道支援活動を届けるユニセフの活動を支えるため、日本ユニセフ協会は「ロヒンギャ難民緊急募金」を受け付けています。みなさまのあたたかいご協力をお願いいたします。

【資料提供：日本ユニセフ協会】



- 6月22日（木）コープさが生活協同組合
「2017年度第27回通常総代会」に於いて募金贈呈式
アフリカ干ばつ緊急募金 535,500円
東ティモール指定募金 530,754円
〈佐賀市アバンセ〉



- 7月4日（土）ユニセフボランティア講座「子どもたちの笑顔のために～わたしにできること～」
・ユニセフってなあに？
・水から世界を考えよう
・「SDG s」ってなあに？
〈佐賀市立図書館〉



- 7月11日（火）イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」参加〈佐賀市：イオン佐賀大和店〉
- 7月12日（水）ユニセフ出前授業 佐賀市立日新小学校平和集会 1年生～6年生 〈佐賀市立日新小学校〉
「平和をまもるために私たちにできること」

- 7月14日（金）ユニセフ出前授業 長崎市立小江原中学校3年生 総合学習
「平和な社会を築くために」 〈長崎市立小江原中学校〉



- 7月22日（土）ユニセフ紹介 さがNGOネットワーク（SaNN）公開講座
「ユニセフと世界の子どもたち」 〈佐賀市：佐賀県国際交流プラザ〉

- 7月26日（水）ユニセフパネル展・地雷レプリカ展 シリア緊急募金活動 〈佐賀市：アバンセ〉

佐賀県生協連主催「ピースアクション2017～みんなで平和を考える一日にしましょう～」

- 7月31日（月）ユニセフ出前授業 バプテスト教会西九州連合子羊会 〈嬉野市：嬉野バプテスト教会〉
「平和を守るためにわたしたちにできること」

- 8月2日（水）ユニセフ出前授業 ドリームパーク西郷小学校 ゆめ組 〈神崎市立西郷小学校〉
「水から世界を考えよう」「水のろ過実験」

- 8月3日（木）～8月6日（日）
佐賀市平和展にてユニセフパネル展&地雷レプリカ展 〈佐賀市立図書館〉
「シリアの小さな声～世界に逃れたシリアの子どもたち～」



- 9月2日（土）トヨタ紡織九州レッドトルネード募金活動
第42回日本ハンドボールリーグ佐賀大会にて 〈神崎市中央公園体育館〉

- 9月6日（水）ユニセフ出前授業 ドリームパーク西郷小学校 ほし組
「水から世界を考えよう」「水のろ過実験」〈神崎市立西郷小学校〉



- 9月11日（月）イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」参加 〈佐賀市イオン佐賀大和店〉

- 9月15日（金）佐賀清和中学校ユニセフ募金贈呈 〈事務所〉
佐賀清和中学校ユニセフ委員会のみなさんは9月5日から9月7日までに
行われた「清和祭」において、ユニセフ募金やチャリティーバザーに取り
組み、「厳しい状況下の子どもたちのために」と116,729円の募金を
届けてくださいました。



- 9月16日（土）トヨタ紡織九州レッドトルネード募金活動
第42回日本ハンドボールリーグ佐賀大会にて 〈佐賀県立総合体育館〉

- 9月27日（水）ユニセフ出前授業 ドリームパーク西郷小学校 ゆめ組
「水から世界を考えよう」「水のろ過実験」 〈神崎市立西郷小学校〉

- 9月30日（土）トヨタ紡織九州レッドトルネード募金活動
第42回日本ハンドボールリーグ佐賀大会にて 〈神崎市中央公園体育館〉

- 10月4日（水）ユニセフ出前授業 ドリームパーク千代田西部小学校 ほし組 「水から世界を考えよう」

2017.8.18(金)～8月25日(金) 平成29年度 全国中学校体育大会

全国中体連に「チーム・ユニセフ」で参加 ～スポーツの力で子どもたちにより良い世界を～

■今年の夏、九州8県で全国中学校体育大会が3日～4日間の日程で行われました。

今年度から、日本ユニセフ協会では、「スポーツの力で、子どもたちに、より良い世界を」を掲げ、日本中学校体育連盟と連携活動を行うことになりました。日本中学校体育連盟では、子どもたちを支援する様々な活動に「スポーツの力」を活かす「チーム・ユニセフ」の考えに賛同していただき、この夏の全国中学校体育大会より、チーム・ユニセフの一員として、共に活動をしていくことになりました。「チーム・ユニセフ」のパネル掲示やチラシ配布、アグネスチャンさんのメッセージボイスの放送や「ユニセフと地球の子どもたち」等の動画を放送して広報活動を行いました。



【佐賀会場】

- 第47回全国中学校剣道大会
8月18日(金)～20日(日)
- 第47回全国中学校バドミントン大会
8月22日(火)～25日(金)

■【佐賀県総合体育館会場の様子】剣道・バドミントン



世界中の子どもたちが住んでいるところ、環境、言葉は違っていてもスポーツを一緒に楽しんで一つのなれたらいいと思います。

「チーム・ユニセフ」展示と動画放送の様子

パネルの説明を聞く生徒の様子

佐賀会場では、全国各地の地域を勝ち抜いてきた選手の皆さんによる“ALL JAPAN”の団体戦や個人戦が繰り広げられました。選手の皆さんからは、これまで頑張ってきた自信と試合に向けた緊張感が伝わり、ユニセフのスタッフ一同も、自分の持てる力を発揮して、悔いのない試合をされるように応援をいたしました。

会場には、選手の方はじめ、指導の先生や保護者などが多く来場され、ロビーで開催しているパネル展示やチラシにも目を向けていただき、関心を持っていただきました。

■【長崎県立総合体育館会場の様子】ソフトテニス



長崎（大村）会場の展示の様子



パネルを見る生徒の様子

【長崎会場】

- 第48回全国中学校ソフトテニス大会
8月18日(金)～20日(日)
- 第48回全国中学校新体操選手権大会
8月22日(火)～24日(木)

長崎会場では、「感動！夢舞台!! 絆をつなげ 九州の地で」のスローガンのもとに開会式が総合体育館で、試合が長崎市合運動公園かきどまり庭球場で行われました。

パネル展示は、選手や関係者全員が集まる総合体育館の方で行いました

■【大村市体育文化センター会場の様子】新体操

新体操の競技会場は、大村市文化体育センターでした。試合が終わった選手たちが、パネル展示やアグネスさんの声に引き寄せられるように集まって熱心に説明も聞いてくれました。

嫌なことがあってもスポーツをするとスカッとして忘れることができて楽しくなります。スポーツにはそのような力があると思います。難民の子どもたちもスポーツの力でつらかったことを忘れて欲しいです。



新体操の選手や、応援にきた高校生が見ている様子

「旅という火と旅からの風」 ～世界の子どもたちの現場から～

今年の「ユニセフのつどい2017」では、“アフリカ” “子ども” をキーワードに、世界80か国を自転車で旅してこられた西野旅峰さんを講師に迎え、「厳しい場所を厳しい時期に旅する」自己の信条のもと、人間の負の現実に関心を当てた旅を通して出会った人々の様々な生き方から学んだことを話していただきました。

◆《西野旅峰さんの紹介》

西野旅峰さんは、現在35歳。テレビのない家に生まれ、本や写真集などに囲まれて過ごす。少年期より旅に興味を持ち始め、大学在学中に自転車による旅を始動。卒業後の10年間で、走行距離9万キロ、80カ国を旅する。-55℃での野宿、55℃でのサイクリングなど「自分の限界」への挑戦や、紛争跡地を訪れ生存者に取材を重ねるなど、厳しい環境に生きる人たちに焦点を当て、自転車で泥と垢にまみれて旅を続けてきた。旅の中では、トレーラーに追突され入院したり、マラリアに罹患し生死をさまよったり、20人の盗賊に襲われたりとあぶない経験も多くした。いくつかの危険な目に遭いながらも常に人に助けられている。1人で旅をしているというより、人に運ばれているという実感を持つ。



講演をされる
西野旅峰さんの様子

◆《講演について》

「ユニセフのつどい」に参加して 吉原麻里さんが、佐賀新聞に投稿をしてくださいました。

「ユニセフのつどい2017」に参加しました。牛津高校ジャンベ部のアフリカの鼓動を感じる迫力ある演奏で幕を開け、世界を自転車で旅をする西野旅峰さんの講演が続きました。

小さい頃から世界中の写真集を見て「自分も見たい」と夢見ていた西野さん。旅の資金作りのため、電気もガスも水道もない、大雨で屋根が落ちてしまうような家（家賃1万円！）に住んだのは「厳しい環境を耐えるため」。最初はバカにしていた周囲の人も、だんだん見る目が変わったとか。夢のためなら頑張れる「夢の力」は周囲にも伝播するのです。

旅の第一歩は、佐賀大学在学中の九州一周の旅。今や世界中を旅する姿からは想像できませんが、最初は怖くて仕方がなかったとか。旅を達成して「スタートラインに立つことの大切さ」と「自分がいかに小さな存在か」に気付いたそうです。

その後10年間かけて北南米とヨーロッパ・アフリカへ。旅を通して、色々な人生があることを知ったといいます。経済的に恵まれていなくとも、幸せそうに生きている人がいること。そして想像もしなかったほど、厳しい状況に置かれた人がいることも。

空腹をシンナーで紛らわすストリートチルドレン、貧困で学校に行けない女の子、紛争に巻き込まれて手足を失った人、病院に行っても治療してもらえない老人…。最初は目を背けていた西野さんでしたが、「自分が見たことを人に伝えるのは、自分の使命ではないか」と覚悟を決め、人々にカメラを向けるようになったそうです。その写真と話に、心を揺さぶられました。

「今の日本の子どもは夢を語らない」といわれますが、まず大人が夢を語れるのか。「前例がなければ自分がやる」という気概をもったパイオニアに、国際人になれているのか。どうすれば世界が平和になるのか、真剣に考えているのか。

「よく生きた」。そう言って死ぬために、私自身も精いっぱい命を使い切ろうという勇気をもらいました。

（2017.9.29（金） 佐賀新聞“オピニオンコーナー”掲載より引用）

◆《オープニング》 牛津高等学校ジャンベ部による演奏 『響け！アフリカの鼓動』

佐賀県立牛津高校には、アフリカの楽器ジャンベを演奏し、現地の歌や踊りも併せて練習しているサークルがあります。

今回、ジャンベ部の2年生8名が、西野旅峰さんの講演に合わせて、「響け！アフリカの鼓動」のテーマで、アフリカの大地を彷彿とさせるジャンベの響きやお祝いの歌や踊りを披露してくれました。躍動感あふれるジャンベの響きと演奏される皆さんの笑顔が大変印象的でした。





unwish の仲間たち!

鹿島ガタリンピック 実行委員会の皆さん

—鹿島市—



第33回 鹿島ガタリンピック実行委員の皆さん

干潟の祭典「鹿島ガタリンピック」は、日本一干満差が大きい有明海の広大な干潟の上で行うこの地域ならではの大会です。

七浦海浜公園ができたオープニングイベントとして、地域の活性化と有明海の良さを発信しようと、昭和60年5月3日に第1回目を開催したこのイベントも、今年で33回目を迎えました。今では世界各国、日本全国から多くの参加があり、国際色豊かになっています。競技参加者は1300人、人出は3万人と報告されています。

また、今年、運営をされていた「フォーラム鹿島」が地域文化の発展に貢献されたということで『第39回サントリー地域文化賞』も受賞をされました。

◆今大会では、6月11日（日）12時のオープニングをスタートに、ガタならではのユニークな競技が8種目ほど用意され、地元の皆さんはもとより、沢山の国や地域から参加された皆さんが、童心にかえり、泥んこになって干潟のぬくもりを体いっぱい感じ楽しまれました。特に、この七浦の干潟は、潮の流れが一番奥まわっていて、細かな土や砂などが運ばれてくるため、ガタの地質も滑らかでやわらかくとても気持ちが良いと話されました。



【ムツゴロウ コンテスト】

◆今回のテーマは、韓国の高興郡と鹿島市の友好関係の結縁から20年を記念し“燦SUNと輝く ガタの国からアンニョンハセヨ”とされました。今年度は、これまで培われてきた繋がりを更に広げて『市民力』を集結し、故郷を更に元気づけていこうと考えられています。今では、ガタリンピックをきっかけに、学校同士の民間交流も広がっているそうです。今年は、韓国をはじめ、留学生等外国の方も80名ほど参加されていたそうです。



【俺が一番！】

◆実行委員長の坂本さんに「ガタリンピック」の自慢をお聞きました。
・昔から干潟を見ていて、遊べる海とは思っていなかったが、干潟も観光資源としてここにしかない景色や体験があり市民の財産になっている。
・泥だらけになっても叱られないし、生温かくて気持ち良い。ストレス解消になる。
・また来なくなるようなイベントにするため工夫を色々やっている。等のお答えをいただきました。

最後に坂本さんは、歴代の先輩たちが育て上げてきたこのイベントを子どもたちへの財産として引き継ぎ、更には「ガタリンピックを通して有明海の魅力を全国だけでなく、全世界に広めたい」という夢を熱く語られました。



◆佐賀県ユニセフ協会も「鹿島ガタリンピック」には、1996年から毎年、募金活動で参加しています。約20年ほどの繋がりになります。当初は、ボーイスカウトの皆さんの協力で、パネル展示やユニセフカードの販売などもしていました。現在は、鹿島市内の中学生ボランティアの皆さんとともに、募金活動をしています。今年は集まった募金を「シリア緊急支援」に送りました。



中学生ボランティアによる募金活動

(語り：実行委員会委員長 坂本鉄也様 取材：江島きよ子)